



hida

広 報

ひだ

町 木



第72号

肥 田 町

まちおこし推進協議会

H27.1.1発行

謹賀新年

自治会長 藤 野 眞 理



新年明けましておめでとうございます。町内の皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、自治会活動につきまして、格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。また自治会役員、各種団体役員、ボランティア、組長様方には、格別のご協力を頂きまして、ありがとうございました。

さて昨年末には衆議院選挙が行われ、経済、アベノミクスが争点の中心として国民に真意を問う選挙となりました。結果として自民、公明が圧勝。しかしこの一年、政治も経済面も波乱の多い年として私も庶民にとっては、生活が良くなったかの実感が乏しいのは私だけでしょうか。

らみ、行政、福祉、防災等への対応におきまして、肥田町が他の町に比べて組数も多く、組内個数にも問題があると思っておりますので、これから継続して大切な課題だと受け止めています。

「肥田の農地は肥田を守る」のスローガンの下、努力されている農事組合法人「ファーム肥田」には念願の格納庫と事務所が完成し、さらなる発展を期待しています。国の農政事業につきましては、平成26年より新たに世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策の概要が変更になり、交付金支援も強化され喜ばしい事であります。関係各位のご尽力のお陰と感謝しております。

また、昨年度に環境ボランティア「肥田の会」が発足しましたが、その最初の取り組みが、自治会役員、まちづくり委員、そして町民有志の方々と共に一体となり、東町の土塁周辺の竹藪伐採作業活動となり、町として歴史的価値の高い土塁の景観を保持することが出来て、出動頂きました皆様方のご支援に厚く御礼申し上げますとともに、今後ともご協力方よろしく申し上げます。

また、このたび「肥田町ボランティアサークルひだまり」が彦根市福祉協議会より、長年にわたる地域福祉活動への貢献が高く評価され表彰の栄をいただくお慶び申しあげ、今後のご活躍よろしくお願ひ申し上げます。

昨年を顧みますと、地球温暖化現象による自然災害が日本各地で発生し大きな被害をもたらしています。肥田の町と言えども、愛知川と宇曾川に挟まれ未曾有の水害が起これば、決して安全な地域とは思われず、また、活断層上にある地震列島日本では、何時、何処で大地震が起きても不思議ではありません。そのような環境から10月、肥田町文化祭当日に肥田町自主防災会主催で緊急時に対応する防災避難者確認訓練を初めて実施しました。併せて彦根消防署南分署の消防隊方のご指導による様々な訓練を体験していただきました。休日にも拘りませず多数の町民の皆様の御参加、深く感謝いたしております。災害にも強く連帯意識も強い肥田町を目指して、引き続き本年も防災避難訓練を重ねたく考えておりますので、町民皆様の挙げて御参加ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

一昨年に「まちづくり委員会」での町民意向調査を踏まえて隣組再編成についてご相談申していましたが、先ずは11組様と12組様が合意頂き本年4月から新11組としてスタート頂きます。組内皆様のご理解に感謝しております。自治会としても、今後急速に進む人口減少をに



おめでと
うござい
ます

平成27年 元旦

益々のご発展を
お祈り申し上げます。

(敬称略・順不同)

成人

平成6年生

薩摩 和宏
青木 裕介
鹿島 沙織
薩摩 ゆみか
森野 友梨

還暦

昭和30年生

青木 洋
鶴野 忠
大村 吉継
松村 庄之丞
児玉 美代子
瀧持 政久
元持 広子
前田 均

喜寿

昭和14年生

宮川 登志子

傘寿

昭和11年生

薩摩 三和子
薩摩 芳子
元持 安栄
鶴野 清子

卒寿

大正15年生

薩摩 よし江

平成27年 成人の日 を迎えて

薩摩 和宏さん (父 敬造さん)



新年明けましておめでとうございます。無事に成人の日を迎えることが出来たのは、家族や地域の皆様方の支えがあったからだと思ひ感謝しています。まだまだ未熟な私ですが、これからは何事にも挑戦していけるようになりたいと思います。今後ともよろしくお願ひします。

薩摩 ゆみかさん (父 卓志さん)



新年明けましておめでとうございます。私が今日という成人の日を迎えることができたのは、家族や友人、そして地域の方々の支えのお陰だと感謝しています。私は、春から幼い頃からの夢である保育士になります。肥田町で育てていただいたことに誇りを持ち、地域の方々に教えていただいた「挨拶の大切さ」を子どもに伝えて行くことの出来る保育士になりたいです。

鹿島 沙織さん (父 能孝さん)



新年明けましておめでとうございます。成人するに当たり、今までお世話になっていた方々への感謝の気持ちを忘れずに過ごして行きたいと思っています。また、この春から社会人になるので自覚と責任を持ち、今迄学んできたことを活かせるように日々努力していきます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

青木 裕介さん (父 洋さん)



新年明けましておめでとうございます。こうして二十歳を迎えることができるのも、今日までお出かいした沢山の人のお陰だと思っています。まだまだ未熟ではありますが、今まで支えて下さった方への感謝を忘れず、何事にも真摯に取り組み、少しでも人のお役に立てるような大人になりたいと思います。

森野 友梨さん (父 勉さん)



明けましておめでとうございます。成人を迎え、無事に二十歳になりました。これまで支えてくれた両親や友人、恩師の方に感謝の気持ちを忘れず、一日一日を大切に生きて行きたいと思っています。また、どんなことにも挑戦し続ける大人になりたいです。これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

新春寄稿

昔のお正月遊びに学ぶ

元持

亘

新年あけましておめでとうございます。

私の子どもの頃、約70年前の昔です。正月遊びの中には、子どもたちが健やかに幸せに育つようにと、親や大人たちの願いをこめて行われてきたものが数多くあります。

その昔には、人間の力では守りきれない厄災から、目に見えない力を借りて子どもを守ろうとした親達の切なる思いがこめられていたのです。

私と同年輩の方は、正月遊びといえば、こま回し・凧あげ・羽根つき・かるた・双六などを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。最近はこの遊びもあまり見かけなくなりましたが、江戸時代にはじまり、明治、大正、昭和の中頃までは定着していました。

こま
独楽回し

軸（心棒）を中心に回転し、独り立ちする。子どもの誕生祝い（遊びごま・飾りごま）にされたそうです。ひねりごま、もみごま、ひも投げごま、逆立ちごま、つりごま・・・等いろいろなこまがあります。

たこあ
凧揚げ

風を受けて空高く上がる凧に、たくましい成長や出世を祈ったことでしょう。

羽根つき

羽根（ムクロジの実に鳥の羽根をつけたもの）は、病気を運ぶ蚊を食べるトンボに似せて作られてあり、子どもの疫病除けだったそうです。

かるた

「犬も歩けば棒にあたる」いろは47文字の枚数があり、かるたの中にことわざや格言が組み込まれており、遊びながら人間としての考え方や生きる知恵を学ぶようになっています。

すごろく
双六

「ふりだし」からさいころを振った目数で進み「上がり」を競う。さいころの目数により「一回休む」「ふりだしにもどる」があり、子どもなりに人生山あり谷ありを感じたことでしょう。

私はこれらの他に、竹馬、ばんえ（めんこ）、ゴムチューてっぽうで遊んだのを思い出します。

ゲーム機に夢中になっている今の子どもたちを見る時、もう一度これらの正月遊びを取り戻そうとは思いますが、昔の遊びの奥にある大人の「願い・祈り」は忘れてはならないように思います。少子化が大きな課題である昨今、子どもたちは親の宝、地域の宝、国の宝、大きく、大きくな一れ。

写真で見る 町の活動特集

10/26

防災避難訓練として、災害時の避難者確認訓練を実施

10月26日の肥田町文化祭当日に、肥田町防災会では、彦根市の防災会指導の趣旨に則り、事前にお渡しした「避難者カード」を各戸にて記入し、家族の当日の所在を明確にした当カードを公民館前に持参、避難誘導班に手渡す。当カードの持参は、町内の80%確認を得ています。



確認終了後に消火訓練も行っています。



11/23

文化財肥田の土塁の環境美化活動を行う

11月23日に予てから懸案となっていた肥田町の文化財として評価の高い土塁の内で、東町南角で竹、雑木などが繁茂している地帯の景観を保持すべく、三日間にわたり、自治会、まちづくり委員会の役員、環境ボランティアの方々が出勤して伐採美化活動に努められました。写真で見るように復元。



11/24

肥田町ボランティアサークル「びだまり」表彰される

平成26年11月24日、主催 彦根市福祉協議会、共催 彦根市、彦根市教育委員会による彦根市社会福祉大会において、社会福祉に関する活動に積極的に取り組み、その活動が他の模範となる団体として、「社会福祉事業功労団体表彰」を授与されました。



特 別 寄 稿

ふるさとに思う

豊郷町安食西在住 藤 旦子
(旧姓 森野)

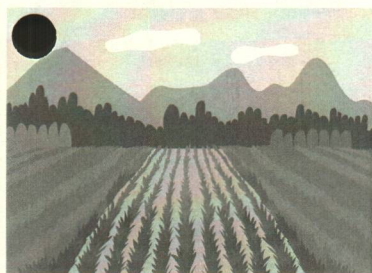
肥田町の皆様 新年明けましておめでとうございます。皆様には良いお年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

「兎追いしかの山 小鮒釣りしかの川」これは昔からの懐かしい童謡ですが、私が生まれ育った故郷肥田町を離れて60年余りが過ぎ去りました。今は80歳を遥かに通り過ぎて超高齢者となっていました。でも、何歳になっても故郷は懐かしく、この童謡の如くです。

「広報ひだ」を発刊される度に、私ごとき者にいつも町の便りを届けていただき、なつかしく愛読させていただいております。有難うございます。

時折、肥田に帰りますが、最近では田園もきれいに整備され、これもまたこのお仕事に携わって下さった方々のご苦労が偲ばれます。これまでの「広報ひだ」の中で掲載されました肥田城址の記事を読ませていただきましたが、私の故郷にも、こんな素晴らしい歴史があったのかと誇りに思っております。

思い出は数々ありますが、大雨が降って度々水害にも遭いました。どんな深夜でも字内の男性の方は水防の見回りをされ、私の父も出て行ったこともあり、子どもながらに心配し夜も眠れなかった事もありました。今はそんなことも全く無く、肥田町の自治の繁栄の素晴らしさを感じます。



農家に嫁いだ私は、小さい頃に食糧難の時代に育ったせいか農業の大切さを感じながら生きて来ました。今尚、土と共に生きております。どんなに時代が変わろうとも自然の育みに感謝し、またお互いの人間関係を大切に、私に与えて下さった余命を大切に生きて行きたいと願っております。私ごとき者に投稿の機会を与えて頂いた関係各位に御礼を申し上げます。どうか今後とも益々、肥田の町がより一層繁栄されますことをお祈りして私の一筆と致します。

故郷 肥田に思う

大津市瀬田在住 山岸 誠一

「故郷は遠きにありて思うもの」と室生犀星の句にも詠まれているが、稲枝から余り遠くない大津市に現在は住んでいる私も50余年も離れていても、やはり我が故郷は肥田である。最近、中学時代の友人と東近江の山岳コースでグランドゴルフを楽しむ機会も増え、肥田町の近くを通ることもあり、一層に望郷の感が蘇る。

春祭り、地蔵盆や宇曾川での遊び、橋の上からの蛭狩り懐かしい。また勉強、勉強で苦労した中学・高校時代など昨日の事の様に思い出され、肥田で育てられて今日があると改めて実感させられている。加えて今日、肥田の町も高齢化、少子化、過疎化の危惧される中で、「まちづくり」「まちおこし」にと尽力していただいている肥田の皆さんの御努力に嬉しく敬意を表さずにはいられません。

私も現在は、後期高齢者の仲間入りをし、これも一つの通過点と思っていましたがやはり基礎体力の減退、集中力の欠如や物忘れも出始めた老化現象と、今迄に経験のない新しい世界への階段を登って行く不安感を感じ始めています。

今、私が世話役を務めている地域のシニアクラブの活動での講演会やイベントにおいても「いかにすれば、これからの人生を充実したものになるか」が主たるテーマになっている。その中で強く印象をうけたものを拾ってみると、

「これからの人生は、キョウヨウとキョウイクが大事であるという。キョウヨウは教養にあらず、今日、用事がある。為すべきことがある。の意味であること。キョウイクは教育にあらず、今日は行くところがあるの意味である。これらの事を上手く調和することが良い刺激を生み、日常の活動に活気が出て精神衛生上に好ましいと導いている。話題の認知症予防にも先ずは、「家を出る」「誰かと出会う」「誰か他人と話をする」が三原則に挙げられている。総じていうならば、常に適度の刺激や脳トレを続けることにあると思う。よく言われるように生き甲斐を持つことも大切であるが、人それぞれに違っていてもよいが、ポイントは一つに絞られる。大勢の人に喜んでもらえること、地域の中での日々の活動を通して人と人との繋がりを深めることが、心と体の健康をもたらし充実した人生へつなげられると受け止めている。さあ、今日もキョウイクは、キョウヨウは何んだったかなと、つぶやきながら飛び起きる次第です。

hida

広 報

ひだ

町 木

第72号
特別版肥 田 町
まちおこし推進協議会
H27.1.1発行

誇りに思う我がふるさと・肥田

草津市在住 山岸 健二

肥田の皆様、新年おめでとうございます。

突然ですが、高校卒業後肥田を離れて54年・72歳の山岸健二です。

小生、生まれは東京・世田谷ですが、3歳から18歳まで15年間肥田で育ち、大学時代を含め大阪には仕事で14年間在住。又、仕事で海外勤務17年（ニューヨーク：4年、南アフリカ・ヨハネスブルク：6年、タイ・バンコク：7年）、その間東京勤務8年、そして今、仕事の都合上、単身草津市に在住目下18年目を迎えております。

それぞれ各地の在住期間は、肥田で育った期間よりも長くなっていますが、18歳まで肥田で育った思い出は数知れず、次から次へと脳裏を駆け巡ります。例えば：

- ・毎日の如く、同期生の藤野一成君と表の県道でキャッチボールをし、裏の川で魚掴みをした事。
- ・夏休み、地蔵盆の準備をさぼり、年長者から殴られそうになった事。
- ・高校時代は受験勉強で、気分転換、刺激を求め、夏・冬休み自転車彦根の図書館まで出掛けた事等々。

54歳から草津市に在住してからは、ご親切にも藤野泰弘様から広報ひだを送付頂き、前述の様に肥田を離れて既に54年になり、在住各地で沢山の方々にお世話になり、思い出も諸々ですが広報・ひだの絆でどの地よりも肥田をもっとも身近に感じています。

広報ひだも既に71号との事ですが、広報を通じ、肥田の活気に満ちた変遷や若返りとその発展を極めて身近に感じ、肥田を“我が誇れるふるさと”との想いを年々強くしております。

新年に当たり、突然ですが、ご挨拶・お礼と共に肥田への想いを綴らせて頂きました。

皆様方のご健勝と肥田の益々の発展を祈念申し上げると共、日頃は失礼致しておりますが引き続き今後とも宜しくお願いします。



故郷肥田

大津市瀬田在住 伊関 正太朗

平成27年の新年を迎え皆様に御慶び申し上げます。月日の早さは年齢に逆比例すると言われています。老い往くほどに日々の経つのが早く感じられる今日この頃です。

私ごとですが、東レが新規事業をはじめることになり名古屋に転勤し肥田を後にしました。爾来54年、勤務地が三島、東京と肥田に住んでいた時より永くなりました。この間、肥田を忘れたことはありません。最終的には現在大津瀬田に住むことになり、特に県内であり何かにつけて想いは深まります。特に冬期には近江八幡あたりから北上し彦根地区は雪の降り様が違います。

同窓会、年会などで帰郷の度に懐かしく想いますがJRの篠原、安土、稲枝各駅の近代化が遅れているのは淋しく思います。また、永く続いていた同窓会「たつみ会」もなくなりました。近年、肥田も更地、空家が散見される今、まさに少子高齢化の社会現象、農村を主とする生活環境問題など難しい問題が山積しています。このような環境のなかで農業改革、TPPなどのグローバル化対策とナショナリズムの葛藤の難しい時代ですが、流れは避けられません。

しかし良き伝統と歴史を大切に次世代につなげていくことが大切だと思います。過去を知れば未来が書いてあるとも言われています。

このような問題が山積している中ですが、今後とも肥田にお住まいの皆様の御健康と地区の発展を心よりお祈り申し上げます。

最後に拙歌3首を挙げさせていただきます。（現在霸王樹同人）

北の空冬の気配の鉛いろ伊吹の山頂雪を被らむ
故郷の果てたる城の資料展展示の絵図に曾祖父の名の在り
天竜寺の桂州老師の筆になる屏風の二双帰郷の度に

